

関東二十四輩めぐり ◇親鸞聖人直弟子のお寺◇

〈板東報恩寺〉



親鸞聖人直弟子の開かれたお寺を二十四輩といいます。前回は当寺の本家寺の願照寺(茨城県鷲子)を紹介しましたが、今回は東京上野の板東報恩寺(東京都台東区東上野)をご紹介します。

関東大震災時に被災した本堂は、鉄筋コンクリート造りに再建され、間口十間、奥行き十三間の大きな建物で、先の大戦での消失を免れたものです。本堂の内陣形式は非常に珍しいもので、中央に柱があり右に阿弥陀様、左に親鸞聖人のお木像が安置されています。この形式は、報恩寺以外では函館別院に許されているのみです。

かつてこのお寺を私がお参りしたとき、先代の住職(板東性純先生)が「親鸞聖人の木像が手に持っている仏子(ほつす)は道元禪師からいただいたものだと伝えられ、調査してみると、親鸞聖人が京都におられた当時、道元禪師のお住まいがとても近いことが分かり、間違いないと思う」と資料を熱心に説明くださったことを思い出します。しかしその半年後に板東先生はお亡くなりになってしまいました。先生の枕勤めをさせていただいたとき、あまりにも穏やかなお姿でありました。

坂東先生は、東京大学・オックスフォード大学で学ばれ、大谷大学教授であった方です。道元禪師と親鸞聖人の関係性を広く知って欲しいと願っていたお姿を今も思い出します。

報恩寺では毎年一月十二日に「報恩寺の組板(まないた)開き」【写真】が古式に則り行われています。これは飯沼の天神社から鯉二匹が届けられ、七百



年余り絶えることなく今に続いています。これは、かつてお寺と神社が区別のない神仏混淆であった名残なのでしょう。

さて、板東報恩寺の開基性信は、常陸の鹿島神宮の大宮司の長子として生まれ、紀州の熊野権現に籠り荒修行などをしていた。縁あって京都の法然上人を尋ねられたが、その時既に高齢であった法然上人は、性信を高弟の親鸞に預け、これにより性信は親鸞聖人の最初のお弟子となられたのです。

親鸞聖人三十五歳のとき流罪で越後に流され、赦免後四十二歳(一一一四年)で関東に赴かれました。その時の性信は二十八歳でした。

関東布教中の親鸞聖人は、無住となっていた大楽寺(現、茨城県常総市豊岡町)という真言宗の寺を、念仏道場として性信に託されたのが「報恩寺」の始まりであります。

また、常陸国一の宮として信仰されてきた鹿島神宮(茨城県鹿嶋市宮中)は、親鸞聖人の時代には、豊富な仏典や経典を所蔵していました。稲田に草庵(現西念寺) 茨城県笠間市稲田)を結びた聖人は『教行信証』執筆のため、たびたびこの鹿島神宮を訪れたと言われています。その道すがら、念仏の教えを説かれ、多くの人が帰依されたということです。

板東報恩寺は関東二十四輩の筆頭のお寺であり、このお寺に親鸞聖人の直筆の『顕浄土真実教行証文類』(板東本)が伝えられ、現在は東本願寺に預けられ、国宝となっております。

同朋の会加入のご案内

日時：毎月十五日
(八月のみ二十日)
午後一時から午後三時
場所：正休寺
*七月と十二月の年二回
年会費：二千元
日帰り温泉旅行

皆で正信偈のお勤めをして皆でお話を聞いて皆で分からないことを聞いて皆で知らなかったことを覚え皆でおしゃべりをして皆でお茶とお菓子をいただいで月に一回 皆で過ごしましょう



【写真】五月十五日の同朋会総会でつがる市西教寺藤川住職のお話を皆で聴聞いたしました。

第9号

2021年8月1日発行
青森県北津軽郡板柳町
大字板柳字土井 241
TEL. 0172-73-2016

正休寺だより

「参詣の自粛の中、感染予防に配慮して」

報恩講 永代経法要が厳かに勤まる

コロナ禍の中、皆様には大変不安な思いの中で日々を送りのお供です。正休寺においても、この一年間大変な影響を受けました。各講中が当番としてお齋(昼食)を準備して勤める「御講」は中止されたままであり、毎月十五日開催の同朋会も一時休会。その後、感染予防に十分配慮して現在は再開させていただいています。

また、毎年十一月二十六日から二十八日にかけて勤めさせていただく「報恩講」については、「出来る範囲の中で精いっぱい勤めさせていただく」との住職の強い願いの中、昨年十一月二十八日に、一日一座の法要として勤めさせていただきました。例年であればその準備の「仏具のおみがき」などをお手伝いいただき、沢山の方にご参詣いただく



永代経法要の参拝者



全ての永代経申請者の法名を安置する左余間

ことですが、今年はそういうこともできない中ではありましたが、例年通りのお荘厳(かぎり)を整え、当日午前十時から住職と副住職の二人で勤めさせていただきました。

皆様へのご案内を遠慮させていただきました。中の報恩講でありましたが、当日は有り難いことに何人かのご門徒様がお参りくださり、共々に報恩講を勤めさせていただきましたことができ、例年に無い感激を覚えたことでありました。

また、昨年中止となった「永代経法要」については、過去二年間の該当者へののご案内とさせていただきます。三月二十七日と二十八日の二日間、一日一座法要として、勤めさせていただきました。

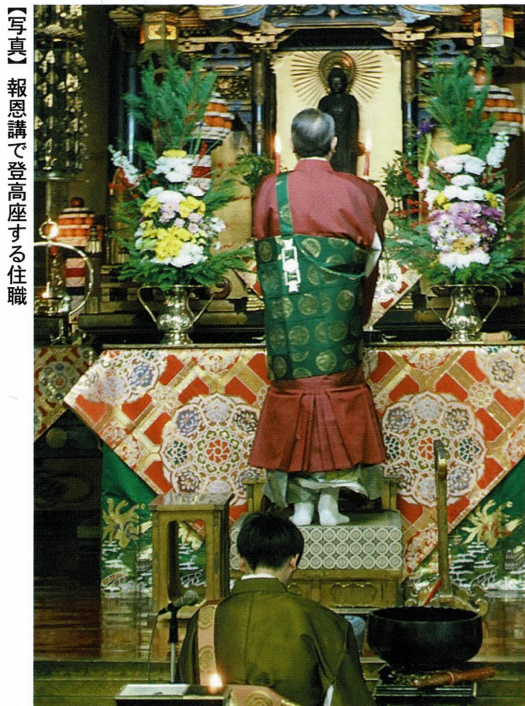
お庫裏からのつぶやき

「ここにあるはずの物が無い」こういう時、まず浮かべてしまうのは自分以外の誰かの顔。でも実は自分が片づけ忘れていたってこと、ありませんか。また、言った記憶がない、聞いた記憶がない、そういうことないですか。最近このような事がチョコチョコあり、何ともやるせない気持ちになります。大きなミスにつながらないよう、確認作業をしっかりしていかなくてはと自分に言い聞かせています。

日常のある一コマ。「あれで良かったのかなあ」と行動を振り返り(確認)つぶやく私。すると「よし悪し、つまり善悪はね：そこに本願のおはたらきがあつて：親鸞聖人はね：」と住職が言葉を添えてくれます。あらためてご法話を聞くのとはまた違い、何気ない会話の中の「それでいいよ、それでいいのですか」との言葉の投げかけは、何だか不思議と穏やかな気持ちにさせてくれます。皆さんと過ごす場、聞き続けていく大切な場をしっかりと整えていきたいと思う次第です。

この暑い時期になると思いがちです。クタクタになり、青白い顔をしてお盆参りから帰って来ていた前任職の姿。そして、ランニングとステテコ姿で大好きな高校野球に歓声をあげていた様子。昨年七回忌を勤めました。今年には生誕百年。「しつかりお寺を預かっているか」と問われているような気がします。

(坊守)



【写真】報恩講で登高座する住職

住職一口法話

親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそうらわず。

(『歎異抄』第五章)

『歎異抄』とは、親鸞聖人の直弟子である唯円が、聖人から直接お聞きした大切なお言葉をまとめたもので、聖人の息遣いを現在に伝える大切な書であります。それは当然お話された相手との信頼関係とその時代状況の中で述べられたお言葉でありますので、今回取り上げましたお言葉も誤解を招きかねない表現でもありません。

ご先祖しのび報恩感謝のお念仏

「父母の孝養」とは「亡き父母の追善供養」のことであり、そのための念仏を一返もしたことが無いと断言されました。なんと親不孝な方かと思われるかもしれませんが、そうではないのです。私たちの命というのは、確かに父母を縁として賜り、限らない慈愛を受けて育てられてきたに相違なく、そのご恩を知らずには自分の命の尊さに気付けないのです。しかし、「自分の親」にも親があり、その無限の命のつながり、当然そこには父方の先祖もおられれば母

「南無阿弥陀仏」、両側には「九字・十字」の名号が安置され、法名のお軸をお内仏の両側面にお掛けすることによって、先に亡くなられた方の法名を御縁として、ご本尊に手を合わせ「南無阿弥陀仏」と念仏を称えるのです。

「南無阿弥陀仏」は「無量なるいのちの働き」を表わし、お内仏に手を合わせることは、父方と母方の全てのご先祖さらには、全ての「いのち」に手を合わせさせていただくことなのです。ですから、ときたまお寺に供養できないいご先祖がないかと心配して

方の先祖もおられ、さらには、様々な食物となって私の命を支えてくれた命、そのことを聖人は「一切有情は、みなもつて世々生々の父母兄弟なり。」と教えているのです。つまり、一切のこの世の生あるものは、それぞれ単独の命を生きているのではない。全てが繋がりの命、無量なる寿(いのち)を私たちは生かされていると教えて下さったのです。皆さんのご家庭に安置しているお内仏(仏壇)のお荘厳(飾り)がこの教えを具体的に示す形になっているのです。まず御内仏の正面中央には、ご本尊の

尋ねてこられる方がいますが、お内仏に手を合わせることで、何も心配することは無いのです。さらに聖人は、「念仏は我が力において励む善では無い」と言いいられます。父母を案じていると思っていた私は、実はその思いに先立って父母より案じられていた身であり、全てが南無阿弥陀仏の働きであることを明らかにされたのです。亡くなった父母は今どうしているのだろう、チャンと良いところへいつてくれているのだろうか、と私たちは心配し追善供養をします。が、聖人は「急ぎ浄土の悟りを開き、いづれの業苦に沈んでしまおうとも、神通方便をもつて、まず有縁をお救いしなさい」と教えておられます。この心は、先に亡くなった父母が、今どうしているだろうか心配しているところではない。心配していると思っている我が身が、「お浄土に生まれさせていただく身となっているのか」と、全てのご先祖さま方から案じられている身なのです。また、聖人は「願作仏心は、すなわちこれ度衆生心なり」と、私が救われたいと願う心と、痛みを苦しむ全ての「いの

ち」あるものを救いたいと願う心は一つ心であることを明らかにされたのです。このお心を、蓮如上人は「報恩感謝のお念仏」「若きとき仏法をたしなめ。急げ急げ」と教えてくださったのです。

正休寺境内のお盆風景

お盆期間中、正休寺境内墓地では、写真のように「御佛燈」と書かれた「お盆灯籠」が各お墓の前に灯されます。この風習は全国的にもとても珍しい伝統ともなっています。

この墓前の灯籠は、それぞれのご先祖様へのお明かりとして灯されます。この津軽地方伝統の灯籠を制作できる方を知っておられれば、是非お寺までお知らせください。



「友引」に お葬式をしても いいの？



葬儀は「友引」の日にしても良いのか、それとも避けた方が良いのか。今回はそのことについてお話ししたいと思います。

はじめに、「先勝」「友引」「先負」「仏滅」「大安」「赤口」の六つのことを六曜といいます。六曜は、明治以降からカレンダーに記載される事が多くなり、現在の様に一般的になりました。そして、結婚式や結納、家の新築など、そういった日にはこれを見て、日の良し悪しを確認する方も多いのではないのでしょうか。私自身、結婚式の日にちを決める際、周りの人から「せっかくなら大安の日がいいんじゃない？」と言われるのを覚えています。そういった日は、お日柄を気にする方が多いのだなと実感しました。

さて、この六曜ですが、鎌倉時代に中国から日本へ伝わりました。「友引」はもともと「共引」と書き、「先勝」と「先負」の間の日にあたります。その為「共引」つまり勝敗のつかない日とされてきました。それが時代の流れの中で、言葉から連想される「友を引く」という意味に変わり、現在の様な使われ方になりました。その為、仏教の教えと結びつくことはありません。他にも、他

県では「友引」は火葬場が休みという地域もあるため、そういった風習が今も根強く残るのだと思います。暦はなにかある時や、心配な時に気になるものと先にもお話ししましたが、ではこういった場合はどうでしょう。友引に葬儀が勤まり、その時にお参りされた方が亡くなってしまったとします。そうしたら「あの日に葬儀したから」とか「友引だから引つ張られたんだ」と言われる事もあるのではないのでしょうか。何もなければなんてことないのだけれど、良くないことが起こると、途端に友引が悪く見えてきてしまふ。つまり、その人自身に起こる日常の出来事や思いによって、良い日とか悪い日が決まる様に思います。今回の友引にお葬式をしても良いのか、という事について、葬儀に限らずどのような時も日を選び必要はないのです。そういった迷信に踊らされてしまい、本当に大切な事から目を逸らしてしまいがちな私達であります。親鸞聖人は和讃で「吉良日を祝ふことを得ざれ」と仰いました。「吉日とか良日、縁起の悪い日、そういった迷信に惑わされてはいけませんよ」という意味です。自分自身がその事や問題について、しっかりと向き合う事が大切な事だと思えます。そして、お葬儀や法事といった仏事の場は、そういったことに気づかせていただく場でもあります。その様なご縁を大切にしていきたいことである。

(副住職)

ペットから学ぶ命の尊さ

コロナ禍で、おうち時間の増加や、自粛生活のストレスで、生活に癒しを求め、ペットを飼う人が増えているというのを最近よく耳にします。しかし、その事が深刻な問題になっているのを知っていますか？

「お店にいるときは大人しかったが、飼ってみると思った以上に大変だった」「テレワークが解消されて出勤しなければならなくなったので面倒が見られなくなった」などといった身勝手な理由で、動物愛護団体が保護してもらおうケースや飼育放棄が増加しているそうです。

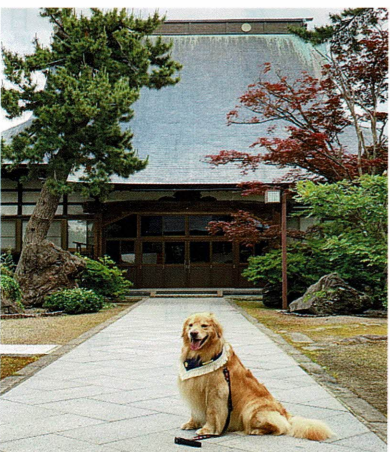
また、ペットブームの中で驚くほど高値で売られるようになりまし。実はその裏で、ポロポロになりながら繁殖させられ、生まれてすぐに親と引き離されてしまう動物たちがいるのです。大きくなると価格は下げられ、それでも飼い手が現れなければ、譲渡会で里親を探るか、お金をもらって売れ残った犬を引き取る「引き取り屋」という業者に渡されるそうです。その後、繁殖目的のブリーダーや一般の人に格安で販売されますが、多くは環境の悪さや、栄養不足で早くに亡くなってしまうのだとか。

「里親募集しています。○月○日までの期限です。」という写真付きのチラシやネット上の投稿を見ると本当に心が

痛くなります。人間の都合で、命をこんなにも粗末に扱って良いものなのかと悔しい気持ちにもなります。ペットはそれぞれ性格も違います。病気もするし、歳もとります。そしていざれ介護も必要になり、沢山お金もかかります。ペットを飼うにあたり、知識と強い覚悟を持つ必要があると思えます。今ペットを飼いたいと迷っている人は、五年後、十年後を見据えて最新の最期までお世話できるのか、もう一度考えてほしいです。ペットは命ある動物なのです。

私は、去年初めて身内の死を経験しました。去年の一月、私の結婚式に来てくれたおじいちゃんです。亡くなったことを知った時は、現実を受け止めきれず、居てくれることが当たり前でないので実感しました。きつとそれはペットが亡くなっても同じだと思えます。人間も動物も命の重さは平等だと思ふからです。

(若坊守)



【写真】実家にいるゴールデンレトリバーのハマー。福島県で生まれた三歳の男の子。連れてきた時は四キロだった体重が今では三十八キロ。お寺に遊びに来ました。